

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日： 2012 年 12 月 10 日

| 応 募 者 情 報 | |
|---|---|
| 応 募 団体名 | <p>(フリガナ) アオイネオンカブシキガイシャ</p> <p>アオイネオン株式会社</p> <p>(団体名)</p> <p><small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。</small></p> |
| 応 募 担当者 連絡先 | <p>団体名： アオイネオン株式会社 静岡本社</p> <p>所在地： 〒422-8076 静岡県静岡市駿河区八幡 2-11-11</p> <p>部署名： 管理部</p> <p>役職名： 課長</p> <p>氏 名： 荻野 隆</p> <p>TEL： 054-282-1221 FAX： 054-285-5089</p> <p>E-Mail： ogino@aoineon.com</p> |
| ホームページ | http://www.aoineon.com |
| <p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>ネオンサイン及び各種看板の企画・設計・製作・施工・メンテナンス</p> <p>各種看板の検査・診断業務（看板ドクター®）</p> | |

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data_list.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

カーボン・オフセット認証を取得済みの活動については、認証番号もあわせて記載下さい。

C・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）【事例】(株)資生堂チェーンストア看板のカーボン・オフセット

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類

http://www.jcs.go.jp/pdf/document/ki_jun.pdf

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

【概要】

本商品は製造・販売元であるアオイネオン(株)が、(株)資生堂の全国の販売店（以下チェーンストア）店頭に設置する電飾看板（以下CS看板）にカーボン・オフセットを付加し、販売する商品である。

本商品は、省エネ等のCO2削減に配慮した製品改良に取組んだ上で、各チェーンストアにおけるCS看板の点灯時に排出するCO2を対象にオフセットを行う。

【カーボン・オフセットの主体】

株式会社資生堂

【算定範囲】

点灯時間を一日5時間とし、看板設置後5年間使用分に相当する排出量を算定範囲とする。

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

【2010年度】2010年5月21日から2011年2月28日

【2011年度】2011年3月1日から2012年2月29日

以降も一年間の出荷台数毎に無効化を実施する。

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社 HP 等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URL を記載願います。

http://www.aoineon.com

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

(自己活動オフセット支援以外の場合)

① 1 排出量の算定方法及び算定範囲

排出量 : 0.30137 t-CO₂/1 台

オフセット量 : 0.30137 t-CO₂/1 台 × 1 年間の出荷台数 (100%)

- ・消費電力 72w/1 台 (メ-カ-資料及び実測定値)
- ・点灯時間 5 時間/1 日 (点灯時間調査サンプリングによる)
- ・消費電力 360wh/1 台・1 日
- ・5 年間の消費電力 657kwh/1 台・5 年
- ・CS 袖看板 1 基あたりの CO₂ 排出量は使用電力量 × 排出係数

※換算係数は設置エリアを管轄する一般電気事業者の調整後排出係数を採用しています。

排出係数は公表された最新の値を使用します。

※点灯時間は看板設置店舗に対しての点灯時間調査 (サンプリング) 結果をもとに設定しました。

① 2 排出量の算定に利用したデータ種類

電力使用量

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください (複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO₂ 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他 (具体的に

)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

京都クレジット (GER)

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

中国湖北省潜江市における小規模水力発電における再生可能エネルギー発電
国連認証 UNFCCC No. 0939

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

2011 年度 : 2011 年 3 月 14 日 160 t-CO₂ (日本政府の償却口座へ移転) JP-00000-00000-02828
2012 年度 : 2012 年 3 月 30 日 191 t-CO₂ (日本政府の償却口座へ移転) JP-00000-00000-04013

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

①□

1986年6月の看板試作以降二度の改良を実施し、2000年には表示板や内部構造の見直しにより、照明効果を損なうことなく内部の蛍光灯を従来の30W×3灯から30W×2灯に減らすことが可能となり、消費電力量が108Wから72Wに削減されました。現在も照明のLED化等を検討し、さらなる省電力化を目指しています。

②

看板の新設、交換や改修のタイミングに合わせて、消費電力の少ない照明器具への交換や反射板等を設置し看板内部の照明効率を上げるなどの省エネ改良をご提案しています。
省エネ改良によって看板設置後の消費電力が減少することにより、ランニングコストの圧縮およびCO2排出削減に寄与することができるため、多くのお客様にご採用いただいております。

2. カーボン・オフセットの内容

①□

看板は省エネ改良を重ねていますが、本来の目的である「点灯」をする限りどうしてもCO2が排出されます。

弊社が排出するCO2は弊社の負担で削減すべきものですから、それを商品の付加価値として販売することはありません。

看板が電力を消費するのは、看板が取り付けられた場所であり、そのCO2排出者は看板の所有者です。カーボン・オフセットの主体である所有者にとってその排出CO2のオフセットという面倒な手続きが不要であることがC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）の付加価値と言えます。

また、排出量の算定手順などは看板の出荷年度ごとに第三者の認証を取得し、排出権を日本政府の償却口座に移転した証明書を発行することで、顧客は自らが主体となった排出枠による政府のCO2削減への協力をきちんと確認できるようになります。

看板製造業で自社の排出枠口座を持つのは先駆者的で、排出権の移転手続きや第三者への認証申請もすべて自社で行います。

口座を保有するコンサルティング会社などと組む場合と比べ、事務手数料を節約できるため、お客様の負担を最小限とし、排出枠を幅広く提供することができます。

②

店頭を設置するCS看板を新設時、老朽化の際に順次入れ替え、2011年度及び2012年度の2年間で約1,600台をC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）として出荷しました。(株)資生堂様の販売店（チェーンストア）は全国で1万店以上あり、現在も継続して実施しています。

また、今後の取り組みとして、新設の顧客には無償で提供し、企業PRに熱心で環境意識も高い企業に、電飾看板使用中のCO2を継続的に相殺出来る仕組みとして広めていきたいと考えています。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

③

企業が事業を通じて社会課題を解決する上では、すぐに収益として数字には現れなくても、長期的な視点で企業価値の向上を目指す戦略が重要となります。しかしながら、中小企業においてボランティアの位置づけでは事業の持続は難しく、本業にとって良いフィードバックがもたらされるビジネスモデルが必要です。自社の培ってきたサインというリソースにカーボン・オフセットをプラスすることで、社会的課題であるCO2排出削減に貢献するC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）を普及させることにより、サイン業界全体が社会的評価を得ると同時に新たな市場価値を生み出すことにつながります。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

①□

㈱資生堂様より、CS看板を設置する販売店（チェーンストア）に対してC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）の説明と協力をお願いすることで、販売店の理解を得ています。今後、資生堂様と全国のチェーンストアが行う協同オフセットとして、国内最大級規模の取り組みに発展しようとしています。

また、看板にステッカーを貼ることで、C・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）であることが、看板を見た様々な人々にも識別できるようにしました。

②

C・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）の取り組みは、“環境に配慮した製品づくり”として、弊社のCSRレポートでも紹介しています。外部のCSRレポート掲載サイトでは、同トピックスの閲覧数が最も多く、業種別のランキングでも上位に位置するなど、社会からの関心の高さが視えます。

また昨年、雪印メグミルク様の本社屋上広告塔の改修工事の際、照明のLED化による省電力化と合わせて、C・O・S®を採用していただいた事例もあり、CO2排出ゼロの広告塔として注目されています。

5. ストーリー性

①□

サインは昼夜を問わず情報伝達機能を担っています。夜間はサインを点灯させることで街並みを明るくし、都市の活性化や治安の維持にも役立っています。しかしながら地球温暖化問題や震災後の節電の影響もあり、夜間の広告照明についても可能な限りの省エネが求められています。そこで私たちは看板照明にて街を彩りながらも、CO₂の排出を最小限に抑えるC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）をお客様にご提案することになりました。

看板は省エネ改良を重ねていますが、本来の目的である「点灯」をする限りどうしてもCO₂が排出されます。弊社が排出するCO₂は弊社の負担で削減すべきものですから、それを商品の付加価値として販売することはありません。

看板が電力を消費するのは、看板が取り付けられた場所であり、そのCO₂排出者は看板の所有者です。カーボン・オフセットの主体である所有者にとって、その排出CO₂のオフセットという面倒な手続きが不要であることがC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン）の付加価値と言えます。

②

「CO₂ゼロの電飾看板」というタイトルでC・O・S®が新聞で取り上げられました。看板点灯中のCO₂をゼロと見なせるカーボン・オフセット型の看板は良い取り組みとして社会からの共感や評価を得ることができ、自社のブランディングにも繋がります。

企業のシンボルとして人々の目に触れることを目的としたサインを利用して社会に価値を創出していくプロセスは、社会課題解決と同時に企業価値の向上や収益性にもプラスの影響をもたらされています。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp